

## は じ め に

現在の高等学校の制度は戦後の学制改革の中でスタートしたが、そのころ公立中学校卒業生の高校進学率は60%に満たなかった。その後経済成長が続く中で進学率は上昇を続け、昭和40年代に90%を超え、現在は96%を超える状況で推移している。

高校進学率の上昇とともに、義務教育における問題や困難な家庭状況などを背景に、学習への関心、意欲、態度や基本的な生活習慣等に課題を抱え、可能性はありながら、学ぶことに積極的な意味を見出すことができない生徒も高等学校に入学してくるようになった。そうした生徒達が多く入学してくる学校は、生徒の厳しい状況に直面し、対応に苦慮している。多くの教員は生徒の指導に懸命に力を尽くしているが、生徒の求めに応じた十分な成果を挙げているとは言い難い。

本委員会では、検討を重ねる中で、こうした生徒に対しては生徒の実態に合わせた思い切った指導のあり方が必要であり、思い切った指導を導入することで成果を上げていくことができると考えている。このような生徒に対して対応策を尽くしていくことは、教育の使命である。この「検討の状況」は、教育課題に対応する学校のあり方について委員会が検討してきた内容を、中間段階で公表するものである。

この「検討の状況」を機に広く議論をいただき、御意見・御提案をお寄せいただければ幸いである。

平成14年2月

教育課題校検討委員会